

[022] 九州大学東洋史論集表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/25761>

出版情報：九州大学東洋史論集. 22, 1994-01-25. 九州大学文学部東洋史研究会
バージョン：
権利関係：

編集後記

本誌二十二号が刊行のはこびとなりました。本号は、九州大学東洋史講座の川勝守教授をはじめ、山口大学人文学部の滝野正二郎講師、大学院博士課程の宮寄洋一氏、研究生の本田精一氏の四名が執筆陣となりました。

川勝氏論文は、十七世紀の明の滅亡、清朝の成立という激動の時代の中で、日本及び琉球が中国王朝の交替にどのように対処していったかを、東アジア全体の国際関係から論じた意欲作です。宮寄氏論文は、今日議論されることが多くなってきた環境問題と、歴史学との接点を求めた関心作といえましょう。滝野氏論文は、「両淮塩引案」を題材にし、清朝における官と商とのかかわりを追求したもので、本誌十五号に掲載された論文の続編にあたります。本田氏論文は、宋・元・明・清における児童算数教育の実態を、丹念に史料を分析することによって明らかにした文字通りの力作です。このように本号においても、興味深く、かつ本質的なテーマを追求した論考を載せることができました。

さて、九州大学文学部では平成五年十月から、イスラム文明学講座が新設され、教授として東京外国語大学より清水宏祐氏が着任されました。今後、東洋史講座とも緊密に連係しつつ活動をしていくこととなりますので、皆様の御支援をお願いいたします。

ところで本誌は定期講読者の皆様の納入代金によって運営されております。今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

(小林)

九州大学東洋史論集

第二十二号

平成六年一月二十日印刷

平成六年一月二十五日発行

編集兼

九州大学文学部

発行者

東洋史研究会

福岡市東区箱崎

六一一九一

代表者

川勝賢亮

印刷所

瞬報社写真印刷(株)

福岡市中央区天神五

丁目四一十六

電話〇九二七三一一三四